

# ふあーむ

1  
Vol.296  
JAN.2019



JA 筑前あさくら

特集



全力!! 自己改革Vol.4

## 広報企画委員がゆく!



### 目次

#### 特集「広報企画委員がゆく!」 ..... 2

生産者訪問「三奈木砂糖は人生の一部、わたしの信念」	4
全力!自己改革—地域に必要とされるJAに—	6
年末年始の営業日および営業時間のお知らせ	8
あぐりキッズ写真館	9
輝け!スマイル・農業ヘルパー募集のお知らせ	10
女性部きらり・JAあさひな通信	11

トピックス	12
普及指導センター営農講座	14
営農センターだより・家庭菜園	15
女性部ふれあいの旅・青春レシピコンテスト	16
みんなのひろば	17
イベントインフォメーション・おすすめ旅行	18
クイズ?頭の体操・理事会だより・概況	19
旬素材・年末年始の緊急連絡先	20



農との共生を育み地域と共に <http://www.asakura-fk-ja.or.jp>

ホームページもご覧ください★





# 広報企画委員がゆく!

JAでは平成29年2月から広報企画委員会を設立し、各室部・支店と連携した地域密着型・全員参加型の情報発信体制の構築を目指しています。その先端を担う各部署の広報企画委員は、広報担当と情報交換を行いながら様々な活動に取り組んでいます。今回は、この広報企画委員の活動にスポットを当ててみました。

## 1 広報企画委員会 ☆ ☆

JAでは年4回開催を基本とし、竹永忠夫副組合長をはじめ各広報企画委員が情報発信や広報体制について意見交換を行っています。10月12日に開催した第3回広報企画委員会では、JA広報大賞の受賞経験もあるJA福岡市の総合企画課システム兼広報係の堀正司係長を講師に迎えて開催。先進事例であるJA福岡市の広報体制や支店だより作成のノウハウについて学び、今後どのようにして広報活動に生かしていくかをテーマにグループ討議を行いました。



◀講師を務めたJA福岡市の堀係長



### 広報企画委員会でのグループ討議の意見 (10月12日開催分)

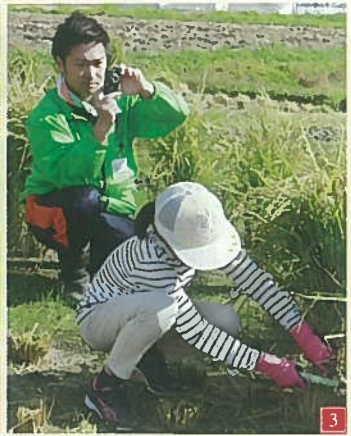
#### 広報体制について

- JA福岡市ではJAの紹介DVDがあり、動画をうまく広報活動に使っている点が素晴らしい
- 出資配当金通知ハガキにJA事業や加工品のPRをしているJA福岡市の事例はすぐに取り入れられそう
- JA福岡市は新入職員や若い職員が中心になって支店だよりを作成しているため、一人一人が広報の大切さを強く認識している。そうした経験を積んだ職員がキャリアを重ね、管理職になっていくので、若い職員たちをバックアップする体制もできている
- JA筑前あさくらも、一人一人が情報発信や広報活動を義務感ではなく、組合員とのコミュニケーションの一環として大切に思うかが問われる。各自が情報発信していくことが組合員との絆を深める機会となり、それが日々の業務や事業推進などにも反映されている
- 役職員一人一人が、さらに役職員間の意識をどう高めていくかが大切だと思った

#### 支店だよりについて

- 「読まなければ作っていないのと同じ」というJA福岡市の考え方が印象的。「読者が読みたい記事は？」を考えながら取材を行っていききたい。行事や季節に応じたイベント紹介、「家の光」やクックパッドなどのレシピ案内も入れてみたい。支店活性化のための一つの武器になる
- 支店行動計画と連動したJA福岡市の支店だより作りは素晴らしい
- 広報誌や支店だよりの中に職員の情報を入れたり、名前入りで編集後記を掲載したりすると組合員さんとのコミュニケーションになる。ぜひ取り入れてみたい
- 支店だよりを組合員だけではなく、地域の人にもアピールしているところが良い
- 他のJAや支店の「支店だより」の良いところを参考に。各支店の作成担当者が連携して情報を共有し、同じコーナーを作っている」JA福岡市の事例はいいと思った





## 2 各室部、支店や地域の情報の発信による広報との連携



毎月1回、「行事予定表」を通じて広報に各部署の情報や地域の行事などを集約し、発信します

## 3 イベントや行事、ファンづくり活動の写真撮影や取材

広報担当や現場の担当職員と連携しながら、様々な話題や「JAファンづくり」活動などの写真を撮影したり、関係者のコメントをもらったり一緒に「ふあーむ」の誌面や日本農業新聞の紙面を作り上げていきます

## 4 広報企画委員会での意見交換と各室部、支店での情報共有

年4回開催される広報企画委員会後は、朝礼や議事録の回覧を通じて各部署で情報共有を図ります

## 5 対内外広報紙「筑前あさくらNEWS」による情報発信

月2回、日本農業新聞に掲載されたJAや地域のニュースで広報担当が組合員や職員向けに作成する対内外広報紙「筑前あさくらNEWS」を各室部、支店に掲示したり、回覧によって情報共有や発信へつなげています

## 6 JA筑前あさくら×JAにじの合同コミュニティ紙「まるかじり」などのPR

広報担当と連携して、JAにじとの合同コミュニティ紙「まるかじり」の地域への配布や同紙の企画「インスタグラムフォトコンテスト」のPRなどにも取り組みます

## 広報企画委員会のあゆみ（平成29年度）

### 第1回 5月24日

#### 広報誌「ふあーむ」について、新たな情報発信ツール（SNS）などについて

広報誌や日本農業新聞、ホームページ、フェイスブックだけではなく、スマホ世代に象徴される若い人などにも楽しんでもらえる新たな情報発信ツールの可能性について意見交換。JAにじの合同コミュニティ紙「まるかじり」のInstagramによる読者参加型企画「まるかじりフォトコンテスト2017」開催のきっかけにもなりました

### 第2回 7月11日

#### 九州北部豪雨のため中止

### 第3回 10月12日

#### 支店だよりについて（グループ討議によるJA福岡市の事例研究）

より充実した意見交換を行うために、グループ討議形式を導入。先進事例のJA福岡市から取り寄せた支店だよりをもとに、取り入れたい企画やテーマ、読みやすいデザイン、写真の撮影方法などについて情報交換を実施しました。この討議により、もっと親しみやすく明るい印象となるよう、印刷紙の色を青から黄色に変えました

### 第4回 2月20日

#### 支店だよりについて、「まるかじり」のInstagramフォトコンテスト審査 来年度の広報企画委員会に望むこと、広報誌「ふあーむ」2018年度の企画について

「来年度の広報企画委員会に望むこと」では、広報企画委員のスキルアップを目指した支店だより作成や写真撮影の研修実施への要望が出ました。広報誌「ふあーむ」8月号の特集「おじゃまします！支店だよりの現場訪問」はこれらを受け、平成30年度には10月のJA福岡市から講師に招いての研修が、それぞれ実現しました。さらに写真講座なども企画中です

## 林俊幸 広報企画委員長



「世界のトヨタ」の発展を支えてきた考え方の一つに「1人の100歩よりも100人の1歩」という言葉があります。広報も同じで、一人一人が情報発信の大切さを意識し、各部署が連携し合って全員参加型の情報発信することで、より組織は最大のパフォーマンスを発揮することができます。わたしたち広報担当部署も現場の広報企画委員から学ぶことも多く、いい刺激になっています。今後も広報企画委員会を通じて全役員が一体となって情報発信し、組合員の皆様とコミュニケーションを深めながら信頼されるJAづくりを目指していきます。